



「日常の繰り返しで、社員全員に、経営理念の浸透を図っています」

業務ソフトウェアの受託開発などで、栃木県を代表する企業の一つである株式会社アイ・シー・エス。昭和57年創業です。昨年7月に社長から会長となった池田勇介さんに、経営理念に込めた想いをつかいました。

(株)

アイ・シー・エスが経営理念を定めたのは、約

20年前。以前から経営理念の必要性は感じていましたが、なかなか決められなかったと池田会長は振り返ります。

「会社説明会で学生から『御社の経営理念は？』と質問されたり、大手企業の幹部から『企業は経営理念を持つべきです』と言われたりしました。その度に必要性を痛感していたのですが、なかなかピンと来るものができませんでした」

最終的に池田会長がとったのは、ユニークな方法でした。当時の社員全員に「これからわが社がめざすのは何か」と質問を投げかけ、その意見を集約して文章化したのです。

同社には経営理念の他に、そ

れを補助する5項目の「ビジョン」が定められています。さらに、社員の信条を定めた「クレド」(ラテン語で「志」「信条」「約束」の意味)もあります。

「わが社では毎朝、社員が自主的な勉強会を行い、雑誌などを使って、さまざまなテーマで意識を高めています。その後、朝礼を行います。そうした場で、経営理念を唱和したり、交代で理念に基づいた3分間スピーチを行っています。

さらに、年に1回経営計画の



本社社屋

発表会を行います。そこでも理念についてきちんと話をします。こうした日常の繰り返しにより、社員全員に経営理念やビジョン、クレドが浸透するよう、意識づけを行っています」

同社は環境活動、社会貢献活動にも前向きです。特に、毎日交代で行っている会社周辺の清掃や、月1回の全員参加による周辺地域清掃は、地域住民からも高く評価されています。また平成18年には宇都宮商工会議所の「環境に優しい優良企業」に認定されています。

お客様向けのフリーペーパー『あい通信』は毎月発行。4月号で172号を数えています。こうした顧客サービスにも、同社の姿勢が現れています。

池田会長は経営理念について「作っただけではダメ、社員全員が共有することが重要」と話します。

「ただ、うっかりすると肝心の経営者自身が、経営理念を守らないことがあります。トップが守らないのですから、社員も守りませんよね。誰よりもまずトップ自身が厳しく律することが求められるのです」

今後はクラウド分野に力を入れて行きたいと話す池田会長。

「お客様にとって本当に役立つシステムをご提案することが、私たちの仕事。お客様のご希望をうかがってその通りにシステムを構築するのではなく、本当にお客様が必要としているシステムは何かを話し合い、ご提案できるよう、日々スキルを高める努力をしています」

経営理念

価値あるシステムの創造

創造の視点として、最善、単純、美しいという3つを念頭において、経営資源といわれる人、もの、金、情報、時間を有効活用できるシステムを創造し、社会の貢献に努める。

Information

株式会社アイ・シー・エス
代表取締役会長 池田 勇介
設立/昭和57年7月
所在地/宇都宮市下戸祭1-9-16
☎028-643-3377
http://www.icsjpn.co.jp



株式会社アイ・シー・エス
代表取締役会長 池田勇介氏